

ISSN 1345-8329

日本地理学会発表要旨集

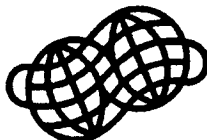
Proceedings of the General Meeting of the Association of Japanese Geographers

No.76

2009年日本地理学会秋季学術大会

10月24日～10月27日

琉球大学



社団法人日本地理学会

2009

目 次

2009年日本地理学会秋季学術大会プログラム（地理学評論第82巻5号の抜刷）

シンポジウム（10月24日～25日）〔公開〕

I. 日本地理学会災害対応委員会 琉球列島における津波災害……………	2
(10月24日, 13:00～16:30, 第1会場)	
II. 日本地理学会ジオパーク対応委員会 ジオパークと大地の遺産百選……………	9
(10月25日, 9:00～12:00, 第1会場)	
III. 琉球列島における地元主導のツーリズムと自然保護との共生……………	15
(10月25日, 13:00～17:00, 第1会場)	
IV. 海とヒトの地理学—変動する自然・社会と漁業文化の現在—……………	21
(10月25日, 13:00～16:10, 第4会場)	
V. 琉球弧に吹く新しい風と持続可能な社会への模索……………	27
(10月25日, 13:00～16:30, 第5会場)	
VI. 熱帯河川の減災に向けた課題……………	32
(10月25日, 13:00～16:20, 第2会場)	
VII. サンゴ礁をめぐる自然と人間の関係誌……………	41
(10月25日, 13:00～17:00, 第3会場)	

一般研究発表（10月24日～25日）

201～219（第2会場）気候・植生, 気候, 災害……………	48
301～320（第3会場）災害・地形, 災害・水文……………	67
401～421（第4会場）農業・農村, 海外研究, 農業……………	87
501～512（第5会場）海外研究, GIS・経済……………	108
601～619（第6会場）地域政策, 文化, 沖縄・政治, 海外研究（農業・農村）…	120
701～720（第7会場）歴史, ツーリズム・都市, 都市・交通, 人口ほか……………	139

ポスター発表（10月24日～25日）

P801～P821（第8会場）……………	160
P901～P927（第9会場）……………	181

（内容説明 10月24日 17:00～17:30 および 10月25日 12:00～12:30）

巡検（10月26日～27日）

第1班 亜熱帯の地形と地形プロセス：サンゴ礁, 波食棚, 泥岩丘陵, 台風石, 海食崖, 地すべり……………	210
第2班 沖縄の基地とまちづくり……………	212
第3班 シマンチュ（島人）ガイドのエコツアー……………	214

この発表要旨集76号は報告者が2009年7月16日までに提出した原稿をもとに写真製版して印刷したものです。

2009年7月

日本地理学会集会専門委員会

2009年秋季学術大会プログラム

2009 年日本地理学会秋季学術大会プログラム

2009 年日本地理学会秋季学術大会を、沖縄地理学会との共催で、下記の要領で実施いたします。

1. 大会日程

10 月 24 日（土）	10 時 00 分～12 時 00 分	代議員会（法文学部新棟 215 教室）
	13 時 00 分～17 時 20 分	口頭発表
	13 時 00 分～17 時 30 分	ポスター発表
		（説明・討論は 24 日（土）17 時から 17 時 30 分までと 25 日（日）12 時から 12 時 30 分までの間に行います）
	13 時 30 分～15 時 30 分	第 17 回地理教育公開講座 地理教育，はじめの一步はどうするの？ 後援：沖縄県教育委員会（第 5 会場）
	13 時 00 分～16 時 30 分	シンポジウム I 琉球列島における津波災害（公開シンポジウム）（第 1 会場）
	18 時 00 分～20 時 00 分	懇親会 琉球大学生協中央食堂
10 月 25 日（日）	9 時 00 分～12 時 00 分	口頭発表
	9 時 00 分～13 時 00 分	ポスター発表
	9 時 00 分～12 時 00 分	シンポジウム II ジオパークと大地の遺産百選（公開シンポジウム）（第 1 会場）
	13 時 00 分～17 時 00 分	シンポジウム III 琉球列島における地元主導のツーリズムと自然保護との共生（公開シンポジウム）（第 1 会場）
	13 時 00 分～16 時 10 分	シンポジウム IV 海とヒトの地理学——変動する自然・社会と漁業文化の現在——（公開シンポジウム）（第 4 会場）
	13 時 00 分～16 時 30 分	シンポジウム V 琉球弧に吹く新しい風と持続可能な社会への模索（公開シンポジウム）（第 5 会場）
	13 時 00 分～16 時 20 分	シンポジウム VI 熱帯河川の減災に向けた課題（公開シンポジウム）（第 2 会場）
	13 時 00 分～17 時 00 分	シンポジウム VII サンゴ礁をめぐる自然と人間の関係誌（公開シンポジウム）（第 3 会場）
	13 時 00 分～17 時 00 分	研究グループ集会
10 月 26 日（月）	9 時 00 分～17 時 00 分	巡検第 1 班
	8 時 30 分～17 時 00 分	巡検第 2 班
	8 時 00 分～	巡検第 3 班
10 月 27 日（火）	～13 時 00 分	巡検第 3 班

2. 大会会場

琉球大学 千原（せんばる）キャンパス 〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原 1

西岡尚也 電話 098-895-8410 e-mail: nishioka@edu.u-ryukyu.ac.jp

大石太郎 電話 098-895-8262 e-mail: toishi@LL.u-ryukyu.ac.jp

大会ホームページは日本地理学会ホームページの学術大会のページ (<http://www.ajg.or.jp/academic.html>) からアクセスできます。

このホームページには大会の発表者ならびに参加者への重要なお知らせが書かれています。なお、大会当日まで随時更新を行う予定です。発表者ならびに参加者は大会直前に必ず内容を御確認下さい。

3. 会場への交通案内

1) 那覇市中心部からのアクセス 「那覇バスターミナル」より那覇バス 97 番琉大線（国際通り経由）に乗

り、「琉大東口」バス停下車（所要時間約40～50分）、バス停から会場まで徒歩5分。平日25～30分間隔、土・日約30～40分間隔。なお、タクシー約30分（3,000円程度）。

2) 那覇市新都心地区からのアクセス 「おもろまち駅前」バス停より琉球バス98番琉大線に乗り、終点「琉大北口」バス停下車（所要時間約30～35分）、バス停から会場まで徒歩15分。平日20～40分間隔、土・日約60分間隔。または、「おもろまち」駅より那覇都市モノレールに乗り、「儀保」駅で下車（所要時間6分）、那覇バス97番琉大線に乗りかえ、「琉大東口」バス停下車（所要時間約25～30分）。なお、タクシー約30分（2,500円程度）。

3) 那覇空港からのアクセス 那覇バスターミナル経由のバスに乗りバスターミナル下車、後は前述1)と同じ。または、那覇空港にて高速バス111番、113番、123番のいずれかに乗り、「琉大入口」バス停下車（所要時間約40分）、バス停から会場まで徒歩20分。あるいは、「那覇空港」駅より那覇都市モノレールに乗り、「儀保」駅で下車（所要時間25分）、那覇バス97番琉大線に乗りかえ、「琉大東口」下車（所要時間25～30分）。なお、タクシー約40分（4,000円程度）。

那覇市内を中心に、道路の混雑が予想されますので、時間に余裕をもって移動して下さい。また、大会ホームページから琉球大学の地図とアクセス方法の案内およびキャンパスマップへのリンクがありますので御活用下さい。

受付	文系総合研究棟ロビー	1階	第5会場	教育学部棟104教室	1階
第1会場	法文学部新棟215教室	2階	第6会場	法文学部棟101教室	1階
第2会場	法文学部新棟114教室	1階	第7会場	法文学部棟102教室	1階
第3会場	法文学部棟201教室	2階	書籍展示	法文学部棟	2階
第4会場	法文学部棟202教室	2階	懇親会	琉球大学生協中央食堂	

4. 大会参加の諸費用

大会参加費：正会員	2,000円
正会員（院生・学部学生）	1,500円
一般（非会員）	2,500円（高校生以下、無料）

懇親会参加費 5,000円（院生・学生3,000円）

発表要旨集 2,500円 会場受付で販売します。

大会参加費と懇親会会費は当日会場で受け付けますが、それらの領収証発行は省略し、参加証（名札）の発行をもって代えます。特に領収証を必要とされる方は、受付手続の際にお申し出下さい。

5. 会場周辺の宿泊施設について

那覇市内には多くの宿泊施設があり、特に国際通り周辺と国道58号線沿いの旭橋から松山地区、新都心地区（那覇都市モノレールおもろまち駅周辺）にかけて集中しております。混み合うことが予想されますので、お早目の手配をお願いします。なお、（株）エアー沖縄（<http://www.air-okinawa.co.jp>、電話 098-867-1414、担当：雪丸）が宿泊施設を特別料金で確保しておりますので、御希望の方は直接お問い合わせ下さい。

6. 食事の案内

大会期間中の昼食については、大会ホームページを御覧下さい。

7. 巡検の集合時間・場所

第1班「亜熱帯の地形と地形プロセス：サンゴ礁、波食棚、泥岩丘陵、台風石、海食崖、地すべり」（日帰り）

10月26日（月）

9時 那覇市バレットくもじ前

第2班「沖縄の基地とまちづくり」（日帰り）10月26日（月）

8時30分 沖縄県議会棟前

第3班「シマンチュ（島人）ガイドのエコツアー」（1泊2日）10月26日（月）

8時 琉球大学附属図書館前

8. 口頭発表について

人名の*印は口頭発表者を示します。発表時間は討論・交替時間を含めて19分とし、1鈴12分、2鈴15分（発表終了）、終鈴19分（討論終了）となります。発表時間枠が固定されていますので、発表者および座長は発表時間を厳守して下さい。

なお、液晶プロジェクターの使用者は、Windows版のPowerPoint2003で正常に表示されることを確認したファイルを、USBメモリー（Windowsで読み込めるFormat）に保存して御持参下さい。各自発表のセッション開始20分前までに各会場まで上記メディアを持参し、担当の者に渡して下さい。

9. ポスター発表について

ポスター発表は、10月24日（土）13時より17時30分までと、25日（日）9時より13時まで、第8、9会場で行います。発表者による説明・討論は10月24日（土）17時から17時30分もしくは10月25日（日）12時から12時30分までの間に行われますので、多くの会員の参加を希望します。

ポスター発表者は、10月24日（土）13時までに、第8、9会場の指定された場所でポスターの掲示を終了して下さい。ポスターのサイズは幅90cm×高さ180cm×1枚です。当日の掲示の方法は会場係の指示に従って下さい。

発表者は10月24日（土）17時から17時30分もしくは10月25日（日）12時から12時30分の間に少なくとも20分間は各自の展示の場所で、質疑・討論に対応して下さい。説明・討論時間は上記時間内でなるべく長く取ることを希望します。展示品は10月25日（日）13時から14時の間に各自の責任で片づけて下さい。

10. 出張依頼状・発表要旨集について

- (1) 出張依頼状の必要な方は、1. 出張期間、2. 依頼状提出先、3. 依頼状送付（返信）先を明記し、切手を貼付した返信用封筒を同封の上、学会事務局へお申し込み下さい。
- (2) 定期購読をされている方で発表要旨集が10月16日（金）までに未着の場合は、学会事務局へお申し出下さい。

11. 地理教育公開講座

地理教育公開講座委員会主催第17回地理教育公開講座

日時 10月24日（土）13時30分～15時30分

会場 第5会場

テーマ：地理教育、はじめの一步はどうするの？

報告者：荒木一視（山口大）、川田 力（岡山大）、西岡尚也（琉球大）

コメンテーター：儀間奏子（名護市立大北小）、中村謙太（八重瀬町立東風平中）

問合せ先 西岡尚也（琉球大） ☎ 903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1 電話 098-895-8410

e-mail: nishioka@edu.u-ryukyu.ac.jp

12. 大会役員

河名俊男（委員長）、上江洲 薫、上原富二男、大石太郎、尾方隆幸、小川 護、鋤塚賢太郎、崎浜 靖、西岡尚也、濱里正史、廣瀬 孝、前門 晃、町田宗博、宮内久光

13. 口頭発表座長表

	10 月 24 日（土）午後	10 月 25 日（日）午前
第 2 会場	201～202 加藤 央之 203～205 森島 濟 206～208 田上善夫 209～211 梅本 亨	212～214 榊原保志 215～217 西森基貴 218～219 小野映介
第 3 会場	301～303 黒木貴一 304～305 島津 弘 306～308 松本秀明 309～312 中村洋介 (立正大)	313～315 小寺浩二 316～317 寺園淳子 318～320 松山 洋
第 4 会場	401～403 両角政彦 404～405 河本大地 406～407 筒井一伸 408～410 中川秀一 411～413 落合康浩	414～417 佐藤廉也 418～419 菊地俊夫 420～421 伊藤貴啓
第 5 会場	501～503 杜 国慶	504～506 堤 純 507～509 山下博樹 510～512 山本健兒
第 6 会場	601～603 荒井良雄 604～606 内田順文 607～608 加藤政洋 609～610 香川雄一	611～613 野中健一 614～615 池谷和信 616～619 関根良平
第 7 会場	701～703 天野宏司 704～705 山根 拓 706～708 山元貴継 709～711 呉羽正昭	712～714 山神達也 715～717 佐藤英人 718～720 香川貴志

秋季学術大会における各研究グループの研究例会開催について

1. 期日および会場 10月25日(日)、会場は当日掲示します。

2. 集会および話題提供

・13時～15時開催

高齢者の地理学研究グループ

岩間信之(茨城キリスト教大):高齢者世帯の食をめぐる生活環境問題の現状と課題

畠山輝雄(日本大):市町村の権限拡大に伴う介護保険サービスの地域差の変化とその要因——地域密着型サービスに着目して

まちづくり・都市再生研究グループ

テーマ:最近のまちづくり都市再生の動き——実態と問題点

山登一輝(日本大・院):余暇活動としてのボランティア組織の地域展開と参加実態

高橋 悠(日本大・院):地域振興の視点からみた地方鉄道活性化の役割と課題

産業経済の地理学研究グループ

特集・農商工連携を考える

高柳長直(東京農業大):「農」に不足する「商」の視点——農商工連携による地域振興の意義と課題

宮地忠幸(国士舘大)・鈴木敦郎・金城至洋(国士舘大・学):中山間地域における耕作放棄作物の資源化と特産品開発——阿武隈高地における遊休桑園を活用した新たな取り組み

中川秀一(明治大):B級グルメ創出活動を通じた地域資源の活用とネットワークづくり——岐阜県郡上市における奥美濃カレープロジェクトによる農商連携

地図・絵図資料の歴史 GIS 研究グループ

塚本章宏(立命館大・学振特別研究員):欧米の研究動向にみる Historical GIS の課題と可能性

町田宗博(琉球大):沖縄における地図と歴史 GIS

・15時～17時開催

近代日本の地域形成研究グループ

土地利用・陸域変化研究グループ

氷見山幸夫(北海道教育大・旭川校):土地利用・土地被覆変化研究をめぐる最近の国内外の情勢について

第1日目 10月24日 (土) 午後

開始時刻	第 1 会 場	第 2 会 場
13:00	シンポジウム I (公開)	〈気候・植生〉
	琉球列島における津波災害	201 井上知栄*・植田宏昭(筑波大): IPCC-AR4マ ルチモデルにおけるアジア・西部北太平洋域 の夏季モンスーン季節進行の再現性比較
13:20	日本地理学会災害対応委員会	202 植田宏昭*・大庭雅道(筑波大)ほか: 広域モン スーンの季節変化に内在する陸面・海洋 フィードバックの定量化
13:40	開始時刻 13:00	203 加藤央之*(日本人)・永野良紀(日本大・院)ほ か: 東アジア地域における地上気圧分布パ ターンの客観分類
	〔趣旨説明〕 13:00~13:10	204 田中誠二*(日本大・院)・加藤央之(日本大)ほ か: 日本付近の11月における前線出現頻度と 気象場との関係
14:00	S101 河名俊男(元琉球大): 琉球列島における津波 災害—シンポジウムの趣旨説明	
	〔座長〕熊木洋太(専修大)	
14:20	S102 13:10~13:35 河名俊男(元琉球大): 宮古・八重山諸島にお ける歴史津波の襲来と津波災害—とくに1771 年明和津波, 1667年地震津波, および1500年 頃の津波	205 遠藤伸彦*(海洋研究開発機構)・松本 淳(首都 大): 東南アジア地域における降水極値の長期 変化傾向
14:40	S103 13:35~14:00 山本正昭(沖縄県立埋蔵文化財センター): 石 垣島白保嘉良嶽周辺の遺跡で確認された地震 と津波の痕跡—新石垣空港予定地内遺跡発掘 調査の成果概要	206 平野淳平*(首都大・特任研究員)・三上岳彦(帝 京大): 古日記天候記録から推定した1830年代 以降の冬季気温変動
15:00	S104 14:00~14:25 西岡陽一*・竹内 仁(国際航業)ほか: 数値シ ミュレーションによる沖縄県沿岸域の津波浸 水予測	207 石坂雅昭(防災科研): 日本の積雪地域の気候 的地理的特徴と積雪深気候値の気温および降 水量依存性
15:20	〔休憩〕 14:25~14:35	208 佐川正人(釧路高専): 北海道釧路市に出現す る霧の特徴
15:40	〔座長〕青木賢人(金沢大)	209 立入 郁*(海洋研究開発機構)・篠田雅人(鳥取 大): 回帰木モデルを用いたモンゴルにおける 将来のゾドリリスク評価
	S105 14:35~15:00 宇根 寛*(国土交通大)・中埜貴元(国土地理院) ほか: 戦時中の米軍撮影空中写真が明らかに した南海地震津波被害と微地形の関係	
16:00	S106 15:00~15:25 後藤和久(東北大): 現地調査と数値計算に基 づく津波石の移動解析と防災への応用	210 咏 梅*(東北大・院)・境田清隆(東北大): 内モ ンゴル中部、渾善达克沙地における植生量変 化とその気候学的解析
16:20	S107 15:25~15:50 宮城豊彦*(東北学院大)・柳沢英明(東京電力) ほか: 2004年インド洋大津波とマングローブ 林域の破壊に関する定量的な評価例	211 吉田圭一郎*(横浜国大)・飯島慈裕(海洋研究開 発機構): 夏季乾燥期が小笠原固有樹種の生長 に与える影響
16:40	〔総合討論〕 16:00~16:30 〔座長〕熊木洋太(専修大)・青木賢人(金沢大)・平井幸 弘(駒澤大)	
17:00	終了時刻 16:30	
17:20		

第1日目 10月24日（土） 午後

開始時刻	第 5 会 場	第 6 会 場
13:00	地理教育公開講座 地理教育、 はじめの一步はどうするの？	〈地域政策〉 601 前田洋介(名古屋大・院)：ローカル・コミュニティにおけるサードセクターの性質の変容—武蔵野市における自主防犯パトロール隊を事例に
13:20	日本地理学会地理教育公開講座委員会 (後援:沖縄県教育委員会)	602 松本久美(明治大・院)：地区計画の策定過程における住民参加—神田淡路町周辺地区地区計画を事例に
13:40	開始時刻 13:30	603 川村真也*(北海道大・院)・橋本雄一(北海道大)：室蘭市における高齢者の生活環境分析
14:00	〔講師〕 荒木一視(山口大) 川田 力(岡山大) 西岡尚也(琉球大)	604 久木元美琴(東京大・院, 学振特別研究員)：非共働き世帯に対する地域子育て支援の供給と地域的背景—三鷹市および高松市の比較から
14:20	〔コメンテーター〕 儀間奏子(名護市立大北小) 中村謙太(八重瀬町立東風平中)	〈文化〉 605 和田英子(首都大・院)：メディア景観と来訪者像から見た場所イメージの形成—東京都渋谷駅周辺を事例として
14:40		606 市田 圭(名古屋大・院)：愛知県常滑市の近代産業景観にみられる色彩の継承と地域における意味の変化
15:00	終了時刻 15:30	〈沖縄・政治〉 607 中島弘二(金沢大)：抵抗の場としての自然—名護市辺野古の海上基地建設反対運動をめぐって
15:20		608 山崎孝史(大阪市大)：基地の街コザにおける場所の歴史的表象—開発資源としての米軍駐留の「再評価」
15:40		609 原口 剛(神戸大, 学振特別研究員)：都市日雇労働運動の動態に関する地理学的研究—空間的回避／固定化・スケール・場所
16:00	〈海外研究〉 501 小島泰雄(神戸外大)：岸田吟香・矢津昌永・米倉二郎の中国地誌	610 石井久生(共立女子大)：バスク自治州における地名変更にみるバスクの再領域化
16:20	502 任 海(日本大・院)：上海市里弄（リロン）住宅地域の再開発に伴う人口分散と都市拡大—静安区大中里を例として	
16:40	503 遠藤 尚*(統計情報研究開発センター)・LAKSONO Anang(東京国際大・院)ほか：インドネシアにおける世帯消費支出構成の特徴	
17:00		

第1日目 10月24日（土） 午後

第 3 会 場		第 4 会 場	開始時刻
〈災害・地形〉		〈農業・農村〉	
301	小野映介*(新潟大)・宮本真二(琵琶湖博物館)ほか：完新世後半における津軽平野の地形環境変遷	401	市川康夫*(筑波大・院)・吉田国光(筑波大・院, 学振特別研究員)ほか：印旛沼湖畔集落における借地経営による大規模稲作の展開
302	安仁屋政武(筑波大・名誉教授)：南米パタゴニア氷原・ペリート・モレーノ氷河の小氷期の前進	402	深瀬浩三(東京学芸大・院)：埼玉県児玉地域における農協集出荷組織の再編と野菜産地の存続
303	瀬戸真之*(立正大)・須江彬人(立正大・院)ほか：地表面の凍結・融解にともなう礫の移動に関する実験	403	多田忠義(東北大・院)：福島県会津地域における森林組合の広域合併と事業多角化
304	小元久仁夫(日本大)：宮古島から採取したビーチロック試料の較正年代と後期完新世の海水準変動	404	仁平尊明(筑波大)：大量・安価な食料供給と農村空間の商品化—東北地方における水稲品種の変化（商品化する日本の農村空間に関する調査報告9）
305	野本章広(愛媛大・院)：海岸環境の保全活動に関する地理学的研究—愛媛県沿岸地域を事例として	405	松井圭介(筑波大)：宗教ツーリズムの創造と農村空間の商品化（商品化する日本の農村空間に関する調査報告10）
306	伊藤史彦*・島 周平(アジア航測)ほか：航空レーザ計測データを用いた中国山地における鉄穴流し跡地の地形解析	406	西野寿章(高崎経済大)：持続可能な発展のための山村の地域政策（商品化する日本の農村空間に関する調査報告11）
307	魚井夏子*(首都大・院)・村田智吉(環境研)ほか：土壌硬度プロファイルと化学性状に基づく都市土壌の類型化—北の丸公園を事例として	407	篠原秀一(秋田大)：北海道羅臼・標津における村落空間の商品化—北東日本における商品化村落空間の地域性（商品化する日本の農村空間に関する調査報告12）
308	小玉芳敏*(鳥取大)・川内勇人(鳥取大・院)：風紋の登坂降坂限界傾斜角	408	平井純子(駿河台大)：山村留学と地域活性化—北海道斜里町峰浜地区を事例に
309	堤 浩之*・Noelynna T. RAMOS (京都大)ほか：隆起サンゴ礁が示すマニラ海溝・フィリピン海溝の巨大地震発生履歴	409	田代雅彦(九州大・院)：条件不利地におけるツーリズム事業の成功とその要因—長崎県小値賀町の事例
310	小暮哲也*・松倉公憲(筑波大)：八重山諸島・黒島における海食崖の波浪性崩壊の分布からみたサンゴ礁の津波の波高減衰効果	410	山田耕生(共栄大)：スキー場周辺地域におけるルーラルツーリズムの展開
311	越後智雄*(地域地盤環境研究所)・小俣雅志(アイ・エヌ・エー)ほか：宮古島断層帯における活断層調査	411	野田江里(首都大・院)：地域資源の観光利用をめぐる主体間の相互関係とその持続性—奥多摩むかしみちを事例として
312	林 奈津子(名古屋大・院)：静岡県太田川下流低地における液状化発生地点の地形条件に関する検討	412	畠山諒子(早稲田大・院)：都市近郊農村におけるクラインガルテンの維持メカニズム—茨城県Y町クラインガルテンを事例に
		413	菊地俊夫*(首都大)・小原規宏(茨城大)：茨城県北部金砂郷地域におけるそばのブランド化とフードツーリズムの可能性
			17:20

大量・安価な食料供給と農村空間の商品化
 — 東北地方における水稻品種の変化
 (商品化する日本の農村空間に関する調査報告 9)

100027

Commodification of rural space in terms of mass and inexpensive food supply:
 Changes in the main varieties of paddy rice in Tohoku region:
 Geographical studies on the commodification of Japanese rural spaces, Part 9

仁平 尊明 (筑波大)

Takaaki NIHEI (University of Tsukuba)

キーワード: 水稻, 品種, 農村空間の商品化, 食料供給, 東北地方

Keywords: paddy rice, variety, commodification of rural space, food supply, Tohoku region

現在, 日本の食料自給率は 40%程度と低迷している, しかし, 主食であるコメの生産量は 90%以上の自給率が維持されている. コメの生産量が長期的に維持されてきた主な要因として, コメの生産と流通に関する農政の方針を指摘できる. とくに 1942 年に施行された食糧管理法は, 水稻をはじめとする食料供給作物に対して, 食料の需給と価格の安定のために, 生産と流通を政府の管理下に置くものだった.

しかし, 1994 年に主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律(食糧法)が公布されると, コメの流通面は, 民間流通による自主流通米が主体となった. また, 政府による管理が弱まったコメの生産面では, それまでの食料を供給するという機能に加えて, 商品を生産するという機能が強くなった. このようなコメの商品化に関する変化は, 生産と流通の様々な段階にみられる. 例えば, 新しい品種の開発と普及, 大規模稲作農家の登場, 農家による販売部門への進出などである.

本研究では, とくにコメの新しい品種の開発と普及に注目する. 従来, コメの品種の開発と普及には, 地方の農政や農協の意向が大きな影響を与えた. しかし, 近年では, 市場の嗜好を反映して, 食味良好な品種の開発が進んでいる. このような新品种の開発, 普及のプロセス, 地域的な販売戦略など, コメの商品化に関する一連の動向を産地レベルで分析することは, 現在の農業地理学の課題である. 本研究では, 水稻の新品种の開発から, 産地における普及までの段階に注目して, 水稻が地域的に商品化するメカニズムを解明することを目的とする.

【東北地方のコメ産地】

事例とするのは, 北海道や北陸地方とならんで, コメの主産地である東北地方である. 作物統計によると, 2007 年の東北地方におけるコメの生産量は 243.1 万 t であり, 全国の 28%を占めた. 本研究では, コメの作付面積が連続的に 1 万 ha を超える地域的なまとまりを「大規模なコメ産地」とする. 2000 年農林業センサスの分析から, それに相当するのは, 仙北平野, 横手盆

地, 庄内平野, 津軽平野, 北上盆地, 八郎潟干拓地, 郡山盆地, 会津盆地, 三本木原台地, 新庄盆地, 能代平野, 米沢盆地, 浜通り地方, 秋田平野の 14 地域であった. また, これら大規模なコメ産地のなかでも, 米穀データバンク社の産地評価区分で最高のランク A に相当する市町村が集中するのは, 横手盆地, 北上盆地, 仙北平野, 庄内平野, 米沢盆地, 会津盆地の 6 地域であった.

【新しいコメ品種の普及】

従来よりコメの品種は絶え間なく開発され, 産地で生産される主要品種も次々に交代されてきた. とくに 1990 年代以降の新しい品種の普及の特徴は, 次の 3 点にまとめられる. (1) 地方レベルでは, 栽培品種が多様化して, 地域分化がみられるようになったこと, (2) 県レベルでは, コメの栽培面積が減少を続けるなかで, 特定の栽培品種に特化してきたこと, (3) 全体的に, 新品种の命名が一般化してきたことである.

新しい品種の開発と普及のプロセスにおいて, コメ生産の商品化として捉えられることは, (a) 市場の需要に対応して, 食味良好な品種が絶え間なく開発されていること, (b) 新しい品種の一部は, 地域ブランド(コメの産地品種銘柄)に指定され, 付加価値が付けられたこと, (c) 農家レベルの普及において, 県や農協の販売戦略を反映して, 有力な新品种が一斉に採用されたことである. なお, 農家レベルで栽培品種が多様化しなかった要因として, 県や農協の販売戦略ばかりでなく, 農業従事者の高齢化を指摘できる.

今後のコメ産地の対応として考えられことは, 最新技術を駆使して新品种を開発している遠方の中小企業などとの連携, 農家や個人商店などの小規模な組織による販売部門への参加, 農地と農業労働力の流動化を推進するような農政の施行などである. また, 近年の品種開発の目標は, 食味の良さやブランド化など, 市場性の追求が大きな目標になっているが, やませに強くて多収量になるなど, 地域の自然に適應できるという従来の育成方針も再評価する必要がある.

日本地理学会発表要旨集 No.76

2009年9月10日発行(年2回発行)

編集・発行

© 社団法人日本地理学会

〒113-0032 東京都文京区弥生2丁目4番16号
学会センタービル内

電話 (03)3815-1912 FAX (03)3815-1672

振替 00140-6-12578 番

E-mail office@ajg.or.jp URL <http://www.ajg.or.jp>

印刷所 〒105-0004 東京都港区新橋 5-20-4
ニッセイエブロ株式会社